

## Ⅹ 特色ある公民館活動②

～つながる・ひろがる・ひびきあう～

# よしみ元気プロジェクト

築上郡吉富町教育委員会教務課

主任主事 中家 立雄

## 1. 事業の内容

### (1) 事業の経過

本町では、青少年の健全育成や地域教育力の向上、地域コミュニティの醸成を目指し、これまで、「体験」「きっかけづくり」をテーマとした子どもの体験活動の推進に取り組んできました。地域の各団体やボランティア指導者の協力により、スポーツや文化、芸能、農業体験などの通年教室、合宿などの交流会、年間活動の総括となる活動発表会など多様な事業を実施しており、多くの子どもたちに、多くの体験機会を提供し、世代を超えた多くの出会いとふれ合いを生むことができました。また、地域住民にも「地域ぐるみで子どもたちを育てる」という意識が芽生えたものと考えています。

一方で、10年にわたる取り組みのなかから、大きな課題も見えてきました。

一つは、事業テーマです。これまで、「豊かな体験が子どもたちの豊かな心を育む」との思いから、「体験」を事業テーマとしてきましたが、継続的・安定的に実施しようとするなかで「体験性」に特化したことが、前年踏襲の事業展開や事業のマンネリ化を招き、「体験完結型」の事業となってきたのです。

もう一つの課題は、事業を実施する団体の組織のあり方です。団体本体は情報の共有や相互の連絡調整の場であり、役員（専門部）がそれぞれの所管する単位事業（○×大会や△□教室など）をもっています。これは、団体として新規事業に取り組む場合には企画や実動の部門がなく、役員で行うには負担が大きくなるという現状があります。つまり、団体機能として不完全といえます。

このように、「体験」というテーマで始動した取り組みも、「きっかけづくり」という目的を果たし、次の事業段階へ移行する時期を迎えています。

### (2) 事業の方向性

#### ① 事業テーマ

子どもたちの成長を段階的に考えたときに、「体験」を第一段階とすれば、第二段階では、「実感する」ことが必要であると考えます。「実感」は、自らが主体者となって考え、判断し、行動するという実践的な体験のなかで物事の本質に触れ、心で直接的に感じ、理解することです。つまり、自発的・創造的に問題を解決する「知的能力」を育むものです。

また、「実感」は心で直接的に感じることから、「心のあり様」がもう一つの重要なキーワードとなります。つまり、「実感」とは単に「知的能力」を育成するだけでなく、対人行動や集団行動における自己の表現と人間関係の形成によって社会性を育み、人間成長を促すものです。

こうしたことから、「心を育む実感ある体験」を取り組み目標にすることとしました。

## ② 団体組織のあり方

本来、任意団体は、それぞれが社会的な目的を持ち、その目的に賛同する者によって形成された集団です。また、事業は、その集団が目的を達成するために集団のなかで役割を分担し、協力して行う組織的作業です。つまり、「目的」こそが団体の価値であり、事業は目的を達成する方法論に過ぎません。必要なことは、「何をするか？」という事業の見直しではなく、まずは、「何のためにするか？」「何を実現したいのか？」という団体としての「究極の目的」から見直すことです。

もう一つに、今後の事業として、より実践的且つ総合的な体験機会を設けていくには、団体がそれぞれ持つ独自の領域に捉われず、広く柔軟に、効果的に連携することが重要であると考えます。実施に際しては、それぞれの作業ごとに独立性と権限をもたせた部会を主体として作業分担することで、事業の内容や運営において、より充実化・効率化を図れるとともに作業をとおして「部会の組織化」が図られます。これは、一団体あるいは一役員に掛かる負担を軽減しつつ、最大限の効果を発揮することができる補完的な組織づくりにつながるものであり、まさに「チーム」の概念であると考えます。

## (3) 事業内容

### ① 事業名称

つながる・ひろがる・ひびきあう～ よしとみ元気プロジェクト

### ② 事業の目的

ある有名人のことばに「元気があれば何でもできる」とありましたが、人の社会行動は、おおよそ自己表現や自己実現といった自己の欲求であり、これが満たされることで精神的な充足感が得られます。つまり、そうした自己を表現し実現する「場」こそが人の「生きがい」であり、生きがいを持つことが人を元気にし、人生を豊かにするものと考えます。つまり、「心を育む実感ある体験」とは、まさに子どもたちが将来的に生きがいを見つけ、元気にたくましく生きていくことを目指すものです。

### ③ 事業概要

この事業では、事業のための事業は行わず、あくまで事業の目的に基づき、各団体の単位事業の活性化と、団体間の連携促進を図ります。

### ④ 実施事業例

#### (1) 平成23年度吉富キッズクラブ育成連絡協議会「キッズ・サマー合宿」

◎ テーマ みんなで友食！心と体をととのえよう！！

◎ 目的 集団活動をとおして生活習慣や食生活を考え、主体性や自立心など子どもたちの「生きる力」を育む。

◎ 概要 主に「食育」に係るグループワークとして、2日間をとおして自分たちが食べる食事のメニューを決め、レシピを作り、食材の買い出しを行い、調理した。

(2) 平成23年度吉富町体育協会吉富ジュニアスポーツアカデミー（J S A）  
「アスリート☆ジュニア：合宿プログラム」

- ◎ テーマ “教え”が育む豊かな“心”
- ◎ 目的 子どもたちが「指導者」となり、“教える”という経験をとおして、「感情・思考・規範」といった「心」の育成を図る。
- ◎ 概要 スポーツ実技などの活動を各グループが担当し、活動の「ねらい、メニュー、スケジュール、運営方法」等を計画する。その後、担当グループが指導者となり、他の児童が参加者となって各項目を実施した。

(3) 平成24年度吉富J S A「アスリート☆ジュニア：第2回研修プログラム」

- ◎ 協力 特別養護老人ホーム吉富鳳寿園
- ◎ テーマ 心を豊かにするオープンマインド
- ◎ 目的 自らが実施主体となり、自らの責任において「なんとかしなければならない」という環境のなかで、オープンマインドを促し、コミュニケーションスキルとマネジメントスキルを育成するとともに、チームワークの精神を養う。
- ◎ 概要 ルール説明や指導、運営等において参加者が実施主体となり、施設入所者とスポーツレクリエーションを行った。

(4) 吉富町寿会連合会「愛の一声運動」

- ◎ テーマ 元気でつなぐ地域連帯－元気でひろげる地域共助
- ◎ 目的 子どもたちの「元気」で、一人暮らしの高齢者を「元気」にし、子どもたちの社会福祉・社会奉仕の精神を養うとともに、心のふれ合いをとおして社会性を育む。
- ◎ 概要 寿会が、一人暮らしの会員を対象に友愛訪問活動を行う事業として実施してきた「愛の一声運動」に、子どもたちが参加した。なお、子どもたちは、手作りの小物とメッセージカードを配布した。

## 2. 事業の評価

### (1) 事業の成果

これまでの取り組みにより各団体の事業は明らかに幅がひろがり、子どもたちの反応も変化しました。これは、子どもたちが目的を理解し、その目的達成のために自発的・積極的に自己を表現しようとしたことの結果であり、大きな「実感」を得たものと考えます。

### (2) 今後の取り組み

「つながる」は内的に地域コミュニティを形成することであり、「ひろがる」は外的に文化を発信し、「ひびきあう」は異文化が融合し新たな文化を生むことと考えています。したがって、現在、各団体が実施している「元気事業」を、今後も推進するとともに、他団体への連携の投げ掛けや新たな元気事業の立ち上げなど事業の拡充を図り、地域における「元気の連鎖」を促進していきます。そして、目的と達成を繰り返しながら「新たな地域文化」を育んでいきます。